

平成27年度フェロー認定（7名）



氏名	奥津 良之
認定時の所属	アズビル株式会社
抱負	<p>貴日本工学会は135年の歴史を有し、国内数多の工学系学協会／学术界の要として存立する重要な組織と認識しております。ここにフェロー称号の候補者として指名されたことに感激しております。また、厚くお礼申し上げます。今、時代の激しい変化の中にあつて、工学技術の果たす役割は非常に大きいと感じています。グローバル競争激化・Internet of Thing(IoT)の浸透・エネルギーの多様化・市場の拡大、そして一方で地球温暖化・人口爆発と異文明の衝突・国内高齢化と少子化、社会インフラの老朽化、国家財政の不安感、等々複雑な問題が多発する中で、愛しい子孫は健康に暮らしていけるのか大変に心配しています。やはり技術を深め、イノベーションを継続しながら、バランスよく社会を運営していくべきと心から思います。私たち一人一人にできることには限界はありますが、日本工学会という稀有の組織で全技術者がベクトルを合わせれば必ずや解決策が矢継早に、次々と編み出されていくものと信じています。『農民は米を作っているのではなく、田を作っているのである。良い田を作れば自然と良い米がとれる』という言葉があります。日本工学会を活用して国内に良い「土壌」を作ればと祈念しています。私見としては教育活動・広報活動などを通して、国内技術者の多様性を生かしながらも、イノベーションに向けてのベクトル合わせを行っていきたいと思います。</p>
氏名	小松 利光
認定時の所属	九州大学
抱負	<p>これまで土木学会や国際水工学会（IAHR）等で学会活動を行ってきたが、専門学会であったため、その拡がりには自ずと限界があった。環境問題や防災問題、地域振興等いずれも一つの分野の研究だけで解決策を得られるものでなく、多分野に亘る学際的な連携が今や不可欠となっている。候補者はこれまで有明海・諫早湾の干拓締切の問題や地球温暖化の下での防災適応策の研究に携わってきたが、学際研究の重要性と更にそれらを高所大所から俯瞰的に見ながら研究を効率的に推進する幅広い見識の必要性を痛感してきた。幸い現在日本学術会議会員、日本工学アカデミー会員、世界工学団体連盟（WFEO）の副会長等を務めており、各分野を横ざしにして見る機会が多くなっているが、更に日本工学会において各専門学会に跨って連携することにより問題を先見的に発見し、解決していく手法の開発に取り組みたいと考えている。</p>

氏名	小山田 耕二
認定時の所属	京都大学
抱負	
氏名	末岡 徹
認定時の所属	大成建設株式会社
抱負	
氏名	西尾 章治郎
認定時の所属	大阪大学
抱負	
氏名	日高 邦彦
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>日本工学会の発展、そして何よりも日本工学会の活動を通じて、より良い社会作りのために、どれだけ貢献できるかを考えていきたい。一昨年の東日本大震災以降、これまで成熟していると考えられていた種々の科学技術に対して、国民の中に不安をもたらしたことも事実である。日本工学会をはじめ、工学関係の学会は各種の活動を通じて、技術に対する信頼の回復に努めているところと考える。こうした地道な活動を継続しつつ、次のステップとして物心両面で豊かな社会や国にしようという議論があってもよいであろう。例えば、インフラ関係の世界市場を見ると、年間で鉄道20兆円、上下水道70兆円、電力80兆円、自動車200兆円、ICT 300兆円、医療・健康500兆円となり、世界を見ればまだまだ技術発展および産業拡大の伸び代は大きいと考えている。明治維新の殖産興業以降、長い歴史をもつ工学・技術分野に携われることを私自身、大変誇りに思っている。すべての日本工学会会員がそう思えるような組織を目指して、これからも多くの仲間とともに活動していきたいと決意するものである。</p>
氏名	矢部 彰
認定時の所属	産業技術総合研究所
抱負	<p>日本の工学研究が、社会の役に立ち、産業界の国際競争力を牽引し、世界をリードできるように全力を尽くしたい。特に、世界のカーボンニュートラルの実現と福島の産業創生に努めたい。（令和6年8月）</p>